

## 第6回ワーキングレベル会合が開催されました

インパクト志向金融宣言の第6回ワーキングレベル会合が2023年4月24日(月)9:30~12:00に、対面・オンライン形式にて開催されました。当日は署名機関、国内の賛同機関から約80名が参加しました。

第6回ワーキングレベル会合では、新規参加機関の紹介、中期計画の策定・宣言文の変更案、賛同機関の整理、分科会活動紹介、セミナー実績・予定、今後の活動について、報告やディスカッションを行いました。



### 1. 新規参加機関の紹介

前回のワーキングレベル会合以降、2023年2月~4月に新たに署名した5つの機関にご挨拶頂きました。

#### 【新規署名機関】

BIG Impact 株式会社(2月1日付)、株式会社三井住友銀行(3月1日付)、特定非営利活動法人 ARUN Seed(3月1日付)、株式会社クレディセゾン(4月1日付)、信金中央金庫(4月1日付)

#### 【本プラットフォームへの期待】

本プラットフォームへの期待として、インパクトに関する知見を集め取り組みの充実化をしたい、インパクトやアウトカムの測定方法やの手法について学びたい、海外でのインパクト投資やジェンダー投資、協同組合金融の動きなどを共有し、新たな投資のあり方や新しい金融のあり方が世界を変えること伝えたい、会合を通じて各機関が持つ知見を共有し社会の発展に尽力したい、先行して取り組む京都信用金庫や但馬信用金庫との連携から地域金融の目線でインパクトをどう与えていくかの研究に貢献したい、インパクト評価をどう行っていくのかの知見を高めたい、といったコメントが挙がりました。

### 2. 中期計画の策定(体制変更含む)・宣言文の変更案について

本会合では、前回のワーキングレベル会合に引き続き、中期計画策定の議論を行いました。新たに参加した機関も多いことを踏まえ、まずは事務局からこれまでの経緯を説明したうえで、運営委員会で議論してきた全体方針や中期計画(案)を説明しました。

#### 【全体方針】

全体方針として、以下3点を整理:①署名機関数増加に関する考え方、②共益・公益の考え方、③他のプラットフォームとの連携について。(資料 P13 参照)

### 【中期計画(案)】

集中討議や運営委員会での議論を経て、7つの計画に整理。(資料 P14 参照)

### 【体制変更(案)】

IMM 分科会と海外連携分科会は横ぐし機能を担うため、今後運営委員会直下の「企画チーム」に配置し、活動成果を全体向けにアウトプットしていく。同じく運営委員会下に、新たに「自走化検討プロジェクト」と Annual Executive Leadership Team」を新設することを提案。(資料 P15 参照)

### 【宣言文の変更について】

人材育成は署名機関共通の大きな課題となっている一方で、従来の宣言文に人材育成に関する記載がないことが議論を踏まえ、宣言文に5条を追加し、宣言文の変更を行うという案を提案。(資料 P16 参照)

## 3. ディスカッション

上記の説明に基づき、「中期計画の構成および内容について」、「組織体制の変更について」、「宣言文の変更(案)をすべきかどうか。また、その内容について」、「宣言文変更のプロセスについて」「本宣言の活動全体のガバナンスについての規約化について」などについて参加者間でディスカッションを行いました。

### 【宣言文の変更(案)について】

- ✓ 人材育成がコアとなっていくため、宣言文の追加には賛同するが、宣言文を改訂する場合には、社長署名を前提にしているため、ガバナンス的にはハイレベルにせざるを得ないだろうと思う。
- ✓ G7で「W7」が提唱されたり、インパクト投資でもジェンダーの側面が重要視されているため、署名機関の皆様がどのように考えているのか伺いたい。
  - ジェンダーの枠組みは非常に重要であると考えている。S指標分科会では、地域に対するコミットメントや地域に対する社会価値を理解・把握していこうという取り組みを進めているが、Sにとどまらず広くインパクトをとらえていく枠組みも模索していこうとしている。
- ✓ 宣言文第1条の内容に取り組んで行くには必然的に人材育成が求められるが、今回新たに5条を追加することで何が異なるのか。また、これを入れることによって金融機関に何を求め、2年後、3年後にどのような姿を想定しているのかについて、整理が必要。
  - 確かに1条は5条を包含しているというように捉えられるが、人材育成という文言を明確に加えることによって、より重要性を引き立たせていくという意味はあるかもしれない。
  - 金融業界全体に、インパクト志向を持った人を増やしていく、それを協調して行っていくという観点で、1条とは別に追加する意義はあると思う。
- ✓ 適切な収益性とインパクト創出の両立は難易度が高いと言えるのか。インパクトを創出しないと世の中に必要とされないという環境になってきているのではないのか。

- ✓ 「インパクト人材」という言葉は、インパクト投資をやっている人にとっては良いが、一般的に「インパクト人材」という言葉が通じるのか。
- ✓ 適切なインパクトと収益性が結びつく関係性を見出していくのは、それなりの熟練度が必要で、それが恐らくインパクト人材であったり、あるいはインパクトアナリストであったりすると思う。両立の難易度が高いというよりは、適切なインパクト評価を実施する難易度がそれなりに高いのではないか。宣言文として、新たに追加を検討している人材について 4 行に渡って記載されているため、もう少しコンパクトにした方がいいのではないか。

### 【組織体制の変更について】

- ✓ エグゼクティブのチームに関して、それぞれの企業や金融機関の中で積極的に活動しているため一任してもいい企業や組織もあると思う。

### 【中期計画の構成および内容について】

- ✓ これまでのディスカッションや意見が反映されたものとなっている。各項目は重要だが、具体的な運営を考えるとメリハリをつけて、マンパワー配分も考慮して進めていくと良いと思う。
- ✓ 2023 年が終わった時点で評価を行うのか、2025 年までの計画を立て実行するのか。コンセンサスを取っておいたほうが良いと思う。
  - まだ議論ができていないが、1 年に 1 回プロGRESS・レポートを出すため、恐らくそのプロセスの中で、もしくは運営委員会で毎月議論する中で、計画の振り返りを実施していくことを検討。
- ✓ 人材育成に関する中期計画(3)について、具体的に何をやっていくかという議論まではできていないが、自社の取り組みを持ち寄って共有したり、共同で研修や意見交換をしたりすると、相互に刺激を受けて人材育成につながると思う。

### 【その他】

- ✓ 組織が大きくなるにつれて運営が難しくなるため、ガバナンスの仕組みを持つ必要があるのではないかと。そして、ガバナンスの仕組みを明確にすることが重要。
- ✓ 運営委員会の中で議論が重ねられてきている一方で、ワーキングレベル会合は四半期に 1 回なので、ギャップが生まれているのだと思う。運営委員会とワーキングレベル会合の接合性については、運営上の課題として対応していく必要がある。
- ✓ 署名機関が 100~200 になった時に、果たしてワーキングレベル会合という仕組みが機能するのかということも考えて行かなければならない。

- ✓ 人材に限らず、宣言文を変更したいとなった場合に、例えばワーキングレベル会合で話すのが最初になるのか、あるいは各分科会で扱うのか、あるいは事務局にもっていくか等のプロセスや、見直しのサイクルなどがあるのか等、どうなっているのか。
  - 現状は特に決まったルールはない。批准～発行のプロセスも未だ決まっておらず、国際的な条約の批准プロセス等を参考にすることを検討していた。

#### 4. 賛同機関の整理

サービスプロバイダー等の非金融機関からの関心が寄せられているなかで、こうした機関の参加は金融機関にも意義のあるため、①賛同機関の営利機関枠(新設)として参加、②署名機関として参加という2つの案を提示しました。

##### 【意見】

- ✓ 例えば企業や政策当局が参加したいとなった場合に、無条件に誰でも受け入れることになりかねないため、案2を考えていく場合は、どういった人たちの署名を受け入れるのか、無制限ではないということをはっきりさせた方がよい。PRIでは、金融機関をサポートしているサービスプロバイダーに制限されている。
- ✓ 宣言文を遵守することを前提とすると、非金融業界が宣言を満たせるとは言えないため、署名機関というより賛同機関で検討していった方がスムーズに議論ができるのではないかと。
- ✓ 賛同機関とはそもそも何なのか、署名機関と賛同機関の違いは何なのか(署名するからにはトップのコミットメントが求められる?)という整理も必要。

#### 5. 分科会活動報告

各分科会の座長・副座長より活動状況を報告して頂きました。

##### 【地域金融分科会】

- ✓ 3月に21世紀金融行動原則と共催でセミナーを開催。2月の会合では、インパクトファイナンス4象限とポジティブインパクトファイナンスの3層構造について議論を行い、4月は中期計画と今後の活動について議論を実施。

##### 【ソーシャル指標分科会】

- ✓ 社会価値を実装していく上での指標とは何かという点での議論を深掘りしていくために、カタログ化・指標化や因果性を明らかにしようとしている人など、様々な実践者から知見をいただきながらアイデアを実装していく。
- ✓ 5月にはコモンズを招いてお話いただく予定。

##### 【IMM分科会】

- ✓ 分科会からより横串機能としての企画チームに移行をするにあたり、1月のワーキングレベル会合以降、横串的機能を果たすための組織体制について協議をしている。また、海外連携と共同の活動は今後も引き続き行う。

#### 【海外連携分科会】

- ✓ OPIMのダイアンさんをゲストを招き、イベントを開催した。今後も海外メンバーが多いなかで、よりアクセスしてもらえるよう工夫をしたい。
- ✓ 5月～7月にもイベントを企画しているので、ぜひ積極的に参加してほしい。

#### 【VC分科会】

- ✓ まずは、分科会メンバーが実務レベルの知識向上によりインパクト投資を実践できるように取り組むことにフォーカスしている。2月3月はピアラーニング形式で分科会を開催し、意見交換や情報共有を行っている。
- ✓ 4月にはIMM分科会と海外連携分科会の協力で、IMPACT VC PLAYBOOKの勉強会を開催。5月から7月の間にIMPACT VCの運営をしている方をお招きしたイベントを開催予定。
- ✓ 地域金融分科会との連携や、インパクトスタートアップ協会との連携も模索中。

#### 【AO/AM分科会】

- ✓ 5月22日にカンファレンスを実施予定。ここでは、パネルディスカッションを行い実際のインパクト投資の取り組みを発信する。また7月21日には科学と金融による未来創造イニシアティブの主催でグローバルカンファレンスを予定している。

### 6. セミナー/イベントの実績・予定

- ✓ 10月のPRI in Personが東京で開催されるため、インパクト志向金融宣言としての関わり方を検討中。
- ✓ 主要な国際会議として、10月にスペインのGSGサミットと、コペンハーゲンでGIINのInvestor Forumも開催予定。参加にご関心のある署名機関があれば事務局と海外連携分科会に連絡してほしい。

### 7. 今後の予定・事務局連絡

- ✓ 署名機関の拡充に向けた活動として証券会社にアプローチ中
- ✓ メーリングリストやウェブサイトを整備していく予定
- ✓ 次回のワーキングレベル会合は、7月に開催予定

以上

資料：第6回ワーキングレベル会合資料(別添)